

# システム戦略



「守り」から「攻め」のIT経営へ  
そのための基盤構築を  
進めています

理事  
グループIT統括本部長  
澤津川 皇一

## 中期経営計画2年目の総括

グループIT統括本部では、当社グループの業績向上に貢献するため、高品質で安定したITサービス基盤の構築を進めています。その中で私達は、「守り（効率化・安定化）」と「攻め（収益性）」の両面からIT経営の実現を目指しています。中期経営計画においては、まず「守り」を確実なものとするを重視し、以下の3つをシステム戦略の重点施策としています。

1. 既存システムの安定化
2. ITガバナンスの整備およびサイバーセキュリティ対策
3. 基幹システムの移行

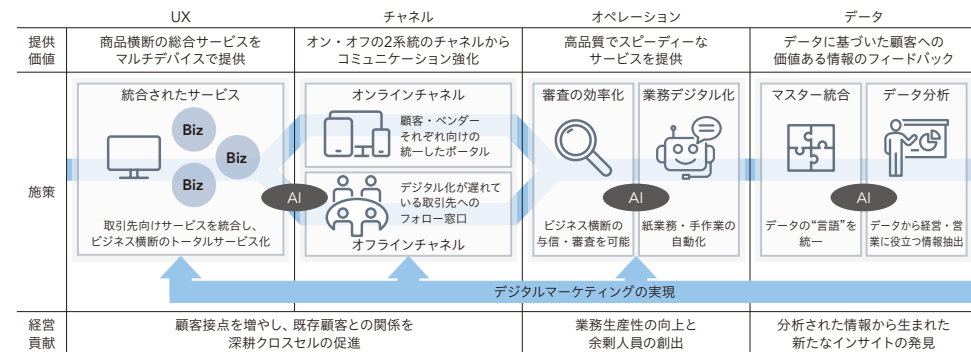
経済産業省が2018年に提起した“2025年の崖”は、当社グループにとっても深刻な課題であり、これ乗り越えるため、システム面での基盤強化に取り組んできました。事業運営において特に重要なシステムを対象に、現行レベルへの性能・品質の引き上げを進め、2024年度中に対応を完了しました。これにより、安定的な業務遂行が可能な環境を整備しました。2023年度から、グループ全体でのITガバナンス強化に向けて関

連規定の整備を開始し、2024年度には必要な対応をすべて完了し、ガバナンス体制の強化を実現しました。サイバーセキュリティ対策についても、これまでのシステムの刷新を図り、最新のセキュリティシステムを導入した当社グループ独自の仕組みを構築しました。「基幹システムの移行」については、現行システムを新たなシステムへと切り替えるための基盤整備をおこない、2025年度から本格的な移行フェーズへ移行する計画です。中期経営計画の2年目を終えた現在、システム面における重大なリスクは概ね解消されたと認識しています。今後は、新たに構築したITガバナンス体制のもとで、残された課題にも順次対応していく方針です。一方で、喫緊の課題として高度な専門スキルを持つIT人材の確保が挙げられます。人材市場は引き続き売り手優位の状況にあり、当初の採用計画どおりには進んでいないのが現状です。この課題に対しては、早急に対応策を講じる必要があると考えており、採用手法や人材育成の見直しを含めた対策を進めていきます。

## 今後のシステム戦略

今後のシステム戦略では、「攻め」のIT経営を本格的に推進していきます。専門的な知見を活かし、各本部のIT化・システム化に対して強固な統制機能を発揮するとともに、全社方針である営業DXの推進と業務の標準化・効率化に向けて、各本部との連携をさらに強化していく方針です。特に営業DXに関しては、2025年に営業本部内に「ビジネスシステム推進部」を新設しました。グループIT統括本部のメンバーも参画しており、営業現場の実態をより深く理解しながら、DXの実行力を高めていきます。今後は、既存の各サービスを統合し、商品を横断した総合的なサービス展開と、UX<sup>\*</sup>の向上を実現することで、既存顧客との関係強化を図っていきます。その過程において、オンライン化が進んでいない業務領域については、既存チャンネルにAIを活用した効率化施策を導入し、業務の最適化を進めていきます。現在は、この構想を実現するための各システム構成要素（パーツ）の構築を段階的に進めています。当社グループが持つ、現場に根ざしたノウハウを活かしたシステム開発力、顧客ごとのニーズに対応できる柔軟なサービス提供力の強みを活かしながら、3～4年後を目標に新システムの本格稼働を目指しています。

※ UX（User Experience）：あらゆる製品やサービスを通してユーザーが感じる使いやすさ、感動、印象といったすべての体験のこと



## Index

Section 1

イントロダクション

Section 2

持続的な価値創造への原動力

Section 3

価値創造を推進する重点戦略

中期経営計画進捗

財務戦略

● システム戦略

人事戦略

営業担当役員メッセージ

事業分野と社会の接点

事業分野別戦略

効率を伴うさらなる拡大

事業&サービス付加による多様化

新たなビジネスモデルへの挑戦

Section 4

サステナビリティへの取り組み

Section 5

企業価値向上を支える経営基盤

Section 6

データ

